

発掘調査こぼれ話～夏の調査現場～

屋外で行う発掘調査にとって、夏の猛暑は大敵です。日陰を作り、扇風機による送風、こまめな休憩・水分補給のほか、気温が上がる日中の屋外作業を削減、屋内作業を行うなど様々な熱中症対策を行っています。



▲ 寒冷紗（黒いシート）で影を作る様子。影があると体感温度が下がり、熱中症のリスクが軽減されます。

最新技術を用いた測量

近年、レーザースキャナー等を用いた三次元測量が普及し始めています。この技術は短時間で測量でき、色情報もわかる非常に優れた技術です。

しかし、遺跡の情報を正確に入手するには人の手による測量も必要です。従来の方法と最新技術を組み合わせ、作業効率の向上を図っています。



▲ 大量に出土した土器の三次元測量データ

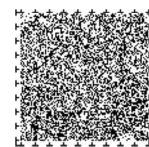
表紙の写真 発掘調査風景

竪穴住居の床面で大量の土器が出土した様子です。ヘラやスポンジで土器についた土の除去や表面の掃除をします。細かい作業のため難しく、集中力を必要とする作業ですが、きれいになった土器が並ぶ状況は圧巻です。



特集

発掘調査の一日



音声コードのご利用には、Uni-Voiceのダウンロードが必要です。

編集・発行 / 福岡市経済観光文化局文化財活用部

〒810-8620 福岡市中央区天神1-8-1 / TEL : 092-711-4666

福岡市の文化財HP : <https://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/>



福岡市の文化財



fukuoka_bunkazai



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

発掘調査の一日



福岡市では開発に伴う多くの発掘調査が行われています。遺跡を掘り起こすことは先人たちの生活を明らかにする一方で、遺跡を破壊してしまうことを意味します。それゆえ、専門の調査員が遺跡を「記録」するという形で、遺跡を「保存」します。

ではどのように記録していくのか、発掘調査の1日を見ていきましょう。

いこうけんしゅつ くっさく

9:00~12:00 朝礼、遺構検出・掘削

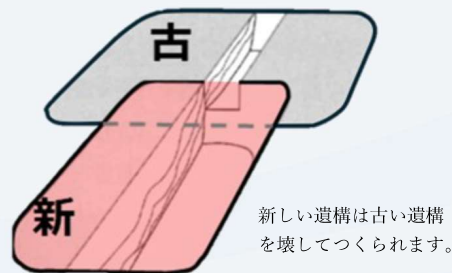
調査区の表面をねじり鎌で削り、遺構（建物の跡等）の形に添って線を引き、検出を行います。どのような遺構があるのか、重なっている場合どちらが古いのかを判断します。



遺構は土の色や質によって区別できます。写真のようにやや黒くなっている部分が遺構です。

新しい遺構は古い遺構の上につくられるため、遺構の輪郭が連続するものほど新しく、途切れるほうが古いと考えられます。この原則に基づいて遺構の新旧を明らかにします。

また、年代が明らかな遺物が出土すれば、遺構がつくられた年代を類推することもできます。



遺構の先後関係
(文化庁文化財部記念物課 2010を改変)

もっと知りたい！



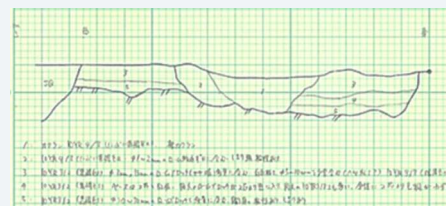
掲載してある文化財についてもっと知りたい！そんな方のために、福岡市内の図書館やインターネットで閲覧できる資料をご紹介します。

- 『全国文化財総覧』 <https://sitereports.nabunken.go.jp>
- 『新修福岡市史資料編 考古1 遺跡からみた福岡の歴史—西部編—』 福岡市史編集委員会 2016

遺構検出が終われば、いよいよ掘り進めていく作業（掘削）です。掘削を進めると多量の遺物が出土することがあります。出土した場所がわからなくならないように、慎重に取り上げます。

13:00~16:30 写真撮影・遺構実測

掘削した遺構は、写真と図面で記録します。図面には平面図、断面図、調査区壁の土の堆積の様子を記録した土層図などがあります。重要な遺構はさらに詳細に測量します。通常は調査員が手作業で測量しますが、撮影機器を用いた三次元測量を行うこともあります。



▲ 直射日光などの光が撮影に悪影響を与える場合は自分たちで影を作ります。

◀ 上で写真撮影している部分の土層実測図です。土の色や質から分かる、遺構の重複関係や埋没過程を記録します。

16:30~17:00 後片づけ

作業が終わると使った道具を片付けます。遺物は出土位置を記録し場所ごとに袋に入れてまとめます。調査区はブルーシートで覆うなどして遺跡が壊れないように保護し、風雨による調査区外への土の流出、壁面の崩落を防ぎます。

- 『新修福岡市史 資料編 考古2 遺跡からみた福岡の歴史—東部編—』 福岡市史編集委員会 2020
- 『新修福岡市史 資料編 考古3 遺物からみた福岡の歴史』 福岡市史編集委員会 2011
- 『発掘調査の手引き』 文化庁文化財部記念物課 2010